

平成28年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492000201	事業の開始年月日	平成25年8月1日
		指定年月日	平成25年8月1日
法人名	ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンターごてん		
所在地	(254-0061) 神奈川県平塚市御殿2-19-9		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成29年2月26日	評価結果 市町村受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

笑顔の花咲くマイホームを目指し、家庭的な雰囲気を大切にしながら認知症の方の暮らしをサポートしています。
笑顔が絶えない暮らしを提供していかれるように日々のケアに努めています。
H28年12月より医療連携加算を習得し、ご入居者様の健康管理を行ってまいります。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成29年3月23日	評価機関 評価決定日	平成29年6月6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 事業所は、JR東海道線平塚駅からバスにて約10分、バス停から約5分の静かな住宅地に立地し、近くには公園や桜のきれいな中原小学校がある。
【法人の理念に沿った独自の理念】 事業所は開設時より独自理念として「温かい心で寄り添ったケアを行い、ご家庭と地域のつながりを大切に」を掲げており、職員は常に理念を確認し合い日々の介助・介護に努めている。加えて、明るく笑顔で・元気に挨拶・物を大切に・清潔感のある環境づくりなどの5つの基本ルールを作り、職員は日頃より意識して業務に取り組んでいる。
【医療連携体制を敷いた医療の充実】 平成28年12月より、医療連携体制加算を算定し、看護師とは24時間オンコール体制にある。また、急変時や要介護度が重くなった場合でも事業所で最期まで暮らしていくことができるように、利用者の尊厳を重視した支援に努めている。
【地域と一体となって開催するニチイ祭り】 毎年、夏には納涼祭、秋にはニチイ祭りを開催しており、その際は地域の家庭にチラシを約500部配って参加を呼びかけている。利用者のぬり絵や貼り絵作品を展示し、ヨーヨー釣り、ゲームコーナー、マッサージの体験コーナーもあり、利用者 と家族のほか、地域の方も訪れ楽しく過ごしている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチイケアセンターごてん
ユニット名	歩

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに理念を掲示してスタッフ1人1人が実践に繋げるように意識しながら業務にあたっている。	理念は開設時に管理者と職員で話し合っって作成し、2階・3階の各事務室とリビングに掲示している。管理者は新入職員研修時に説明し、職員は日常業務の中で確認し合い、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣のスーパーに買い物に行ったり、気候の良いときに公園等に散歩に行っている。	町内会には未加入だが、町内の情報は事業所の近くの掲示板と近所に住む職員から得ている。神社のお祭りの際は山車を見物し、初詣にも出掛けている。ギターやピアノ演奏、マジックショーのボランティアが来訪している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ニチイ祭りの一環で認知症ケアについてもミニ講座を行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際に、利用者の家族と施設の管理者が会議に参加し、会議で出た意見を他のスタッフと共有し、サービス向上へ繋げている。	運営推進会議は2か月に1回、小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。会議では事業所の運営状況や活動内容、外部評価の受審結果を報告し、意見交換を行い、地域の理解と支援を得るよう努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員に毎月来てもらっている。	ひらつか地域介護システム会議に出席し、情報収集に努めている。介護相談員が毎月来訪し、利用者の日常生活の変化の様子などを聞きとっている。その内容は支援の参考にしている。介護保険の要介護認定更新の手続きに家族に代わって立ち会うこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットの出入り口は施錠を行っているが玄関の施錠はしていない。 ミーティング等で話し合いを行いながら取り組んでいる。	職員は身体拘束についてミーティング時に話し合っている。玄関は施錠せず、見守りと声かけに努め、各フロアの出入り口は防犯上と安全面から、家族の了解を得て施錠している。帰宅を望む利用者には職員と一緒に外出し、見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待行為に繋がらないようにスタッフ間でコミュニケーションをとりながらケアにあたっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は後見人制度を利用されている方はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時だけでなく、分からない事はいつでも聞いていただける体制をとっている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一度満足度調査を行い、改善に努めている。	運営推進会議や家族の来訪時に、意見や要望を聞いている。家族から「食事をきざみ食に変えて欲しい」「食器を使いやすいものに変えて欲しい」などの要望がある。法人が独自の満足度調査を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個別に話しを聞いて意見や提案をして貰い、業務に反映させるようにしている。	管理者は月1回の業務ミーティングやユニット会議、毎朝の申し送り時に職員の要望や意見を聞いている。職員から、利用者が食事の際に使うスプーンの変更の提案があり、家族と話し合いやわかりやすい素材のものに変えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度があり、職員のスキルアップを図れるようにしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修では拠点だけでなく、支店で行う研修にも参加出来るようにしている。外部研修にも出来る限り参加出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市内のグループホーム連絡会に参加している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメント時にご本人様からも話を聞き、どういう生活を送っていきたくかを聞き取っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より、ご家族の話を聞いて、ご家族の要望を取り入れたプランを作るように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居までに時間がかかることもあり、介護サービス未利用者には、入居までの間、他のサービスを利用出来るように紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々のご入居様の出来ること出来ないことを把握し、一緒に行いながら日々を過ごすようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との関わりが途切れないように、イベント等の参加を呼びかけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居者様の友人等の面会に制限はしておらず、いつでも来ていただけるようにしてあり、実際に来られている。	利用者は家族と一緒に外食や墓参りに出掛けている。自宅へ帰り、家族と一緒に過ごす方もいる。知人や友人が来訪した際は、居室に通し湯茶でもてなしている。年賀状の返信を書いた時はポスト投函を職員に依頼している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひとりの時間も持ちつつ、他の方とも関れるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらを退去されたご家族が遊びに来られたり、イベントへの案内を送っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前は事前面接で、入居後はご本人とのコミュニケーション（困難な場合は行動やしぐさ等）を通して要望の把握に努めている。	職員は利用者の日常の行動や表情の中から、意向や希望を汲み取るように努めている。家族の来訪時に話を聞いたり、生活歴も参考にしている。意向を自分から伝えにくい方には、入浴や散歩など1対1になった時にゆっくりと話を聞き、思いの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接にて、ご本人、家族に生活歴、嗜好等を聞き取ることで把握に努めている。入居後も本人とのコミュニケーションを通して状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態やご本人のできる事などを入居者と接することで現状把握に努める。併せてスタッフからも現状を聞き取るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	概ね6ヶ月に1度介護計画の見直しと並行してご本人、家族、介護スタッフへのモニタリング及びサービス担当者会議での意見交換を行う。その結果を介護計画に反映させる。	入居前に自宅や病院、これまで利用していたデイサービスへ訪問し、本人や家族と話し合っている。アセスメントに基づき、暫定プランを作り、職員間でカンファレンスし、医師の意見を参考に介護計画を作成している。通常、見直しは6月毎に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご入居者様の個別の記録に気づいた点を記入し、ケアの実践についてのアイデアを申し送りノートを活用し職員間で情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご入居者様の状況、ニーズに応じて、柔軟にサービスを提供できるように支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご入居者様の状況、希望にもよるが、近所のスーパーにスタッフと共に行って、好きな物を買うなどの支援行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にご本人またはご家族が、往診医による受診か今までのかかりつけ医による受診か選択できる。いずれの場合も適切な医療が受けられるよう支援している。	本人や家族が希望するかかりつけ医を継続して受診できるように支援している。現在は、ほとんどの利用者が協力医療機関の往診医を受診している。医療情報は「利用者状況」や「申し送りノート」に記録し、共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	H28年12月より訪問看護が週1回来所している。来所時は介護スタッフから、ご入居者様の状況を伝え、相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入院先に行き、状況を確認し、病院関係者と情報交換を行い、退院後想定される新しいニーズについて相談している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	指針はあり、ご家族と話し合い終末期をどう過ごすかを話し、主治医や看護師と情報を共有し支援を行うようにしている。	入居時に重度化した場合における対応に係る指針を説明している。いままでに数名の看取り介護を経験している。急変時には主治医へ連絡し、看護師と家族、職員が話し合い、できる限りの対応をとる方針である。	看取り介護の経験はありますが、急変時や重度化に備え、職員の勉強会を実施し、一層充実した終末期ケアに取り組むことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、初期対応について研修を実施している。緊急時の報告、連絡体制も研修時繰り返し確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、実施時に判明した問題点はミーティングで話し合い、解決に努めている。	防災・避難訓練は併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、年2回実施している。水害と火災想定訓練を行っている。訓練には地域の方の協力を呼びかけている。近隣に住んでいる職員がおり、すぐに駆けつけられる体制にある。非常災害用の食料・飲料水は3日分備蓄がある。	運営推進会議などを通じて、防災・避難訓練に対する地域の方の協力が得られるように働きかけることを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご入居者様にあった声かけを行うように心がけている。スタッフ間でもお互いに注意をするように心がけている。	職員は入職時に守秘義務についての誓約書を提出している。日頃より、プライバシーを損ねることのないように、優しくゆっくりと、わかり易い言葉かけを心掛けている。個人情報を含む書類は施錠の出来る書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご入居者様に聞くようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご入居者様のペースで過ごされている。ご自分からしたいことを言ってこられる方には希望に添えられるように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方には積極的に行ってもらい、出来ない方に関してご本人様の好みに合わせて行うようにしている。1~2ヶ月に一度のペースで訪問理美容に来てもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや後片付けが出来る方には一緒に行っていただいている。	利用者は職員と一緒に、テーブル拭きやお茶入れ、下膳、食器洗いなどを行っている。職員が献立と食材を購入し、調理している。食事介助が必要な方は2階が2名、3階が3名おり、職員は介助や見守りに専念している。	職員は、食事介助に努めるために、利用者と一緒に食事を摂るのは困難な状況です。食事の感想を介護記録に記録していますが、今後もより一層食事を楽しめるように工夫を期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご入居者様の状態に合わせて提供をするようにしている。食事量・水分量は毎回記録に残し、摂取量が少ない方には好みのものを提供して促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは行っている。また全員ではないが、訪問歯科で管理して貰っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行いながら、失敗が少なくなるようにスタッフ間で話し合い支援を行っている。	介護記録表で排泄パターンの把握に努め、トイレ誘導の支援をしている。利用者が立ち上がった時、落ち着きがない動作から察知し、声かけに努めている。リハビリパンツを使っていた方がパットを活用することで布パンツへ改善した例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日行い、便秘傾向にある方には、水分を促したり食事に注意をしている。それでも出ないときは主治医に相談を行うようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は基本的には決まっているが、ご入居者様の意思を確認して行うようにしている。	入浴は基本的には週2回で、夏場はシャワー浴を希望する方もいる。入浴を好まない方には、声かけの仕方や時間を変えたり、利用者が入浴したいと話したときには予定が無くても入浴をしてもらうなど臨機応変に対応している。季節を感じられるゆず湯や菖蒲湯を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者様の習慣に合わせて午睡をしてもらったり、就寝時間を変えたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は一箇所にまとめてあり、すぐに見られるようにしている。また処方内容が変更になった場合はすぐに伝えて変更後の状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の好きな事をしていただいたり、得意な事を積極的にさせていただいたりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により一緒に買い物に行ったり、散歩に行かれるようにしている。	あまり遠出はしていないが、天気の良い日には、近所の御殿公園へ散歩に行き、職員と一緒に買い物にも出掛けている。ベランダで日光浴をする利用者もいる。近くの中原小学校へ花見に出掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預らせていただいて、欲しいものが買える様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者様宛てに来た郵便物はすぐにお渡しをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内には季節の飾りつけを行い、季節感を出すように心がけている。	リビングは明るく、日当たりも良く、清潔に保たれている。空気清浄器を置き、床暖房を完備しており、温・湿度にも配慮している。利用者の外出時の写真や手作りの桜の花の貼り絵を飾っている。利用者がベランダのクンシランに水やりをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に行き来できるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものやなじみ物をお持ちいただくように話をしている。	居室はエアコン、クローゼット、防炎カーテン、照明器具などが備え付けられている。利用者は使い慣れたベッドや椅子、整理ダンス、テレビを置き、家族の写真を飾り、一人ひとりがくつろげる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく自立した生活を送っていただくように、行き過ぎたケアにならないように心がけている。		

事業所名	ニチイケアセンターごてん
ユニット名	陽

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各フロアに理念を掲示してスタッフ1人1人が実践に繋げるように意識しながら業務にあたっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の買い物に行くときに、近くのスーパーやドラッグストアに利用者と一緒に行き、地域の人との交流を図れる機会を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ニチイ祭りなどの時に、認知症講座という形や、普段の施設見学にて地域の人への理解を図る機会を作っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	実際に、利用者の家族と施設の管理者が会議に参加し、会議で出た意見を他のスタッフと共有し、サービス向上へ繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員に毎月来て頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	業務ミーティングなどを用いて、スタッフ全員に拘束などの研修を行い、スタッフ1人1人がしないように意識しながら取り組んでいる。 フロアの入り口に関しては、階段による転倒・転落防止のため施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待についても、業務ミーティングで研修という形で学ぶ機会を作っている。 又、スタッフ1人1人が虐待を行わないように意識しながら利用者のケアを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングなどで、それらを学ぶ機会を作っている。又、個々で必要性を感じたときは実際に活用し、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、不安な部分がないかを確認し、十分に理解して頂いた上で、納得を図り、契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から、利用者やご家族の意見を元にケアを行い、1つ1つ利用者のことを考えながら業務にあたっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングなどでスタッフから出た意見は、スタッフ全員で共有して、反映可能なものに関しては実際に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフが1人1人の勤務可能日や、可能な時間を聞き、なるべく要望に沿ったシフトを元に1人1人に就業して頂いている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域で行う研修などがあったときに、その研修へ行かせて頂き、1人1人の能力アップに繋がっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	同業者が集まる研修などに行かせて頂き、個人のスキルアップや情報交換などの出来る機会を得て、その中でサービスの質の向上に繋がる取組みを行わせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約やアセスメントの時点で本人宅へ直接行き、本人の要望や不安などを聞いた上で、他のスタッフとも共有して、本人との関係作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約の時点で不安なことや、困っていることを伺い、要望などを伺った上でケアプランを作り、ご家族に説明して安心を図っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の要望・ご家族の要望を伺った上で、必要な支援を見極め、プランに組み入れ、そのプランに沿ったケアを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフが行っている事で利用者の方にもやって頂いたり、利用者1人1人のペースを崩さないように生活して頂いたり「生活の場」ということを意識しながら業務にあたっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅での様子と施設での様子をご家族と共有し、この中でスタッフが出来ることをやり、ご家族に出来ることをやって頂くなどして、共に本人を支えていく関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの付き合いのある友人などの馴染みの人には、本人が入居してもいつでも面会に来れるような時間や環境を作っている。 又、場所についてはご家族に連れて行って貰うようお願いしたり、近場であれば一緒に行くように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活の中で、利用者同士の関係を把握し、1人1人が得意・不得意を理解した上で、日々の家事を行って頂いたり、食席を考えるなどしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人の契約が終了しても、ご家族との関係を断ち切らないように、施設の大きな行事などにご家族を招き、本人の様子などの情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から積極的に会話し関わっていくことで、話し易い雰囲気作りに努めています。ご希望に添えない場合であっても、出来る限り意向に沿添えるよう努力しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が入居される際に、アセスメントの時点で本人のこれまでの生活環境や暮らし方を聞き出し、その内容を他のスタッフと共有し、1人1人が把握出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	普段の生活の中で、利用者の現状を知る為に日々の家事等を行って頂くことで、1人1人の現状を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	普段から、本人の様子について話し、その中で必要な部分をスタッフ間で話し合い、介護計画への反映に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や、ミーティングなどで出た内容をスタッフ間で話し合い、本人のプランの見直しに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の利用者の状況や、ニーズに対してその都度スタッフ間で話し合い、その状況に適した対応を行うように、1人1人が心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の誕生日に、近くのケーキ屋に食べたいケーキなどを一緒に見に行き買いに行ったりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回、かかりつけ医による往診があり、本人及びご家族の希望を聞いた上で診察して頂いている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回来られる訪問看護師に、気づいたことや気になる事などの本人の状況を伝え、その上で診て頂き、指示の元適した対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時は、入院前の状況を細かく病院側へ伝え、的確な処置をして頂けるよう努めている。又、入院した際は面会の度に本人の様子を伝えて頂けるなどの情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期の対応については、ご家族の要望を聞き、本人の状況に合わせて、要望に沿った対応を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当については、実際に専門の人に来て頂き、スタッフ全員で学ぶ機会を作っている。又、急変や事故発生時の対応マニュアルをフロアに掲示し、1人1人が目を通すように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難訓練や消防訓練などを用いて、災害時の対応方法を身につける機会を作り、その中でスタッフ1人1人が学ぶ事が出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、居室への入室や直接介助時のひとつひとつの動作などに対して、その都度声掛けを忘れないように心掛けて対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、何をすることに対しても必ず本人の意思を尊重し、了解を得た上で行動している。 又、本人の思いなどを聞き要望に沿ったケアを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	本人のペースで生活して頂き、したいことなどの希望があれば要望に沿えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様のご希望を伺いつつも、季節感や気温に配慮し、アドバイスする様に気をつけている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者との会話の中で、1人1人の好みを伺いながら、メニューに取り入れられる様心掛けている。 下ごしらえや味付けや後片付けもスタッフと協力して取り組んで頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食事・水分の摂取可能量を把握した上で食事の配膳を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア時に、その都度1人1人を洗面台誘導し、口腔ケアを行って頂いている。また、自分で出来ない方はスタッフで毎回介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行いながら失敗が少なくなるようにスタッフ間で話し合い支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を毎日行い、便秘傾向にある方には、水分を促したりしている。それでも出ないときは主治医に相談を行うようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は基本的には決まっているが、ご入居者様の意思を確認して行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご入居者様の習慣に合わせて午睡をして貰ったり、就寝時間を変えたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は一箇所にまとめてあり、直ぐに見れるようにしている。また、処方内容が変更になった場合は直ぐに伝えて変更後の状態観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の出来ること・出来ないことを把握し、出来ることを積極的にしていただいたりしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により一緒に買い物に行ったり、散歩に行かれるようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預らせていただいて、欲しいものが買えるようにしている。 また、お金を持っていないと不安がある方には小銭を持っていただくようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者様宛てにきた郵便物は直ぐにお渡ししている。返事を書かれたときにはお預かりして投函している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内には季節の飾りつけを行い、季節感を出すように心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に行き来出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものやなじみの物をお持ちいただくように話をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく自立した生活を送っていただくように、行き過ぎたケアにならないように心掛けている。		